

# SPARC Japan セミナー2023

「即時OAに備えて:論文・データを「つかってもらう」ためのライセンス再入門」

## 開会挨拶 / 概要説明

山形 知実

(北海道大学)



### 山形 知実

北海道大学附属図書館研究支援課研究支援企画担当係員、2023年度SPARC Japanセミナー企画ワーキングメンバー。大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）委員としてOA推進作業部に所属。主な関心は、オープンアクセスの広がりによる学術情報流通の変転。



### 本セミナーの目的

本セミナーのテーマは、「即時 OA に備えて: 論文・データを『つかってもらう』ためのライセンス再入門」です。2023年のG7広島サミットおよび仙台科学技術大臣コミュニケをきっかけに、日本においても、2025年以降の研究論文の即時OA化に向けた方針を立てることになりました。購読費モデルからOA出版モデルへの転換契約も広がりつつある中、研究成果のオープン化を実現する動きは急速に加速しています。各論文や研究データのライセンスは、研究成果のオープンな共有・利用に一定の秩序をもたらすものとして重要性が増しています。

一方で、情報の一次生産者である著者が本来持つ権利を再度確認し、ライセンスが意味するところを正確に理解した上で、どのライセンスを付すことが、真に科学と社会の発展に貢献するのかということを考える機会は、これまでそう多くはなかったと思います。今回のセミナーでは、グリーン、ゴールド、ダイヤモンドといったOA化の手段の議論から離れて、論文やデータを適切かつ効果的に利用する・利用してもらうた

めに研究者はどのような戦略を立てられるのか、また政策立案者、出版社、図書館等の関係者はどのような支援ができるかを、ライセンスという切り口から考えていきたいと思えます。

### 本日のプログラム

本セミナーは、6名の講師によるご講演とパネルディスカッションの2部構成となっています（図1）。前半の講演部分では、著作権・ライセンスの概要と、なぜそれがオープンアクセスに関係するかという前提知識の共有に始まり、次いで日本の政策動向の紹介、そ

#### プログラム

##### 講演

30分でざっくり理解するオープンアクセスと著作権	鈴木 康平様
日本のオープンアクセス政策	赤池 伸一様
J-STAGE Dataの現状とライセンスについて	久保田 壮一様
オープンアクセスとライセンスに関する出版社の見解	Victoria Eva様
研究成果をより広く公開するためのライセンス付与について: CCライセンス付与の経験から	野村 周平様
アメリカにおける権利保持の現状	Jennifer Beamer様

##### パネルディスカッション

【パネリスト】 鈴木 康平様、八塚 茂様、小野 浩雅様、小池 文人様、渡辺 智晴様  
【準パネリスト】 前半登壇の皆様、企画WGメンバー

(図 1)

して日本のJ-STAGE、海外の出版社、図書館職員といった各関係者からの現状報告に移ります。図書館職員の立場からは、機関リポジトリ業務に関連し、実際にライセンス付与されたご経験のお話も伺います。最後に、一足先にパブリックアクセス方針の更新について発表した米国での権利保持の状況をご紹介します。後半のパネルディスカッションでは、さまざまな分野の研究者の皆さまに加わっていただき、研究者や関係者がライセンスについてどう考えていくのか議論を深めていければと思います。お忙しい中、登壇をご快諾くださった皆さまには、この場を借りて御礼申し上げます。